



想いをかたちに

有森裕子

絵を描くのが好きです。子どもの頃からクロッキー帳はいつもそばにあつて、もう何冊目になるのか数えていません。いちばん好きな画材はクレヨン。手に伝わってくるポコポコ感を楽しみながら、浮かんでくるイメージをそのまま紙にのせていくんです。

かすれたり滲んだり、線の出方は紙によつて全然違つて、ざらざらした紙、滑らかな紙それぞれが作る表情が楽しい。厚みや手触りなど紙ならではの感触が、独りの作業に親密に寄り添つてくれます。

私にとって描くこととは、自分の気持ちをはかり、形にし、想いをのせる行為。書くこともまたそうで、昔から心に響いた言葉を紙や日記に書いて宝物のように集めていました。

高校時代、陸上部に入ったもののまったくバツとしなかった私は、体育館に掲げられていた格言の「強烈な勝利への意志」という言葉に惹かれ、全文をあらゆるものに書きまくりました。書いて繰り返し見てイメージし、実現化していく。書くことで自分の中に落としこみ、出していくんですね。だから日記にはいつもすべてを吐き出すようにしていました。

ただ、現役選手の時は練習日誌だけつけて、日記は書かなかつた。自分の逃げ場所にしたくなかつたから。同じ理由で手紙も一切、書きませんでした。バルセロナに行く前、小学校の恩師から葉書をいただいたんです。『愛するに時があり、憎むに時があり、戦うに時があり、和らぐに時がある』という旧約聖書の一節を引き、「あなたは今まさに戦う時なのだから、頑張りなさい」と。この葉書はバルセロナまで持つて行ったけれど、返事は書きませんでした。アスリートとして私がそこで表現すべきなのは結果を出すことのみなので。応援して下さる方々に返事ができるのは結果でだけなので。だから文字に頼ることを自分に許さなかつた。厳しいあの頃でした。

今は、走るといふ場さえあればいい。全く私を知らない子ども世代と走つて何らかの体験を得てもらえたら嬉しいし、どう応援したらいいか考えなきゃいけない相手がいることは私の学びになって、それは私を生きさせてくれます。

最近ではオンラインでの講義やトークライブが増えました。若いアスリートから「メンタルの調整は」「自分をどう持つて行つたら」などと質問があると、字を書くことを勧めているんです。今日の字と明日の字は違うし、朝と夜の字も違う。手書きの文字には内面や状態がすごく出るから、まずは書いて、今の自分と相對してみるといいですよ、って。

子どもたちには画用紙に触れて、描きたいものを思い浮かべる時間をたくさん持つて欲しい。触って、感じて、自分の内側から湧き上がるイメージを発見して形にしていく。大人にも子どもにも大事なことじゃないかと思うんです。

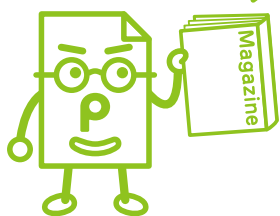




ありもり・ゆうこ ●元マラソン選手。1966年岡山県生まれ。日本体育大学卒業後、(株)リクルート入社。92年バルセロナ五輪で銀、96年アトランタ五輪で銅メダルを獲得。98年スポーツや教育を通して被災地や紛争地の子ども、障がい者を支援するNPO法人「ハート オブ ゴールド」設立。2007年東京マラソンでプロマラソンランナーを引退。10年IOC女性スポーツ賞を日本人として初めて受賞。知的障がい者にスポーツを提供する(公財)スペシャルオリンピックス日本理事長なども務める。

ペーパー君のつ・ぶ・や・き 活動

雑誌なら、雑誌だけひとまとめ。

雑誌・新聞・段ボールなど、回収された古紙は、それぞれ違う紙へとリサイクルされます。だから同じ種類の古紙でまとめた方がリサイクルしやすいし、古紙の品質だって良くなるんです。それにその方が持ち運びだってラク。まとめるだけで、いろんなメリットが生まれるんです。



主な古紙の一例		その他にも
		家庭から出る左記以外の紙(雑がみ)、オフィスペーパー、紙バックなどがあります。
雑誌	新聞	※分別方法は、地域によって異なります。詳しくは自治体または回収者にご確認ください。
	段ボール	

紙のことをもっと伝えたい。詳しくは、<http://kamitsubu.com/>「ペーパー君のつ・ぶ・や・き」WEBサイトをご覧ください。

今回は7月1日号です。

提供 ● 日本製紙連合会 <http://www.jpa.gr.jp>

Photo : Shiro Miyake